



地域に必要な医療を提供するとともに 先端医療を担うフロントランナーをサポート

平塚市民病院

神奈川県平塚市



平塚市民病院は、平塚共済病院、済生会平塚病院、東海大学医学部附属大磯病院の4つの病院で協力し、平塚市と大磯町、二宮町を併せ人口32万人の急性期医療をカバーしている。人的医療資源は決して充足しているとは言い難いが、病院間の連携により周産期医療や小児救急を維持しており、市民の貴重な財産となっている。

(上)同院では看護師同士がチームワークを発揮し、患者が安心できる看護を提供している
(左)隣接する建上ヶ丘公園のたんじょう池から臨む平塚市民病院。同院では4月から地方公営企業法を全部適用し、病院管理事業者を置き今後の安定経営を目指す



①周産期センター。同院は周産期医療に力を入れており、8床のNICUで平塚市内の周産期救急に対応するほか、年間400件以上の分娩を扱っている
 ②同院でホルミウムレーザー治療を手掛ける泌尿器科部長の加藤忍医師。今後は手術手技を広く普及させていくことが目標だ
 ③ホルミウムレーザーで前立腺肥大の治療をしている様子。同レーザー治療ではHoLAP（ホーレップ）という手技が確立されており、出血が少なく合併症を起こしにくくして、多くの医師が手技を学ぼうと研修に訪れる



3病院で連携し 平塚地区の小児救急を維持

平塚市民病院は、創立以来一貫して市民が安心して暮らしていくための病院作りを行ってきた。その一つとして周産期医療に力を入れており、8床のNICUで市内の周産期救急に対応するほか、産科常勤医6人で年間400件以上の分娩を扱っている。また、東海大学医学部附属大磯病院、平塚共済病院の小児科と協力し、3病院計12人の小児科医で輪番制を組み、小児の救急患児がいずれかの病院で必ず受け入れられるシステムも維持している。

さらに「災害医療に対する意識も非常に高く、災害派遣医療チーム(DMAT)の養成にも力を入れています」と、石山直巳院長は話す。現在は県から神奈川DMATの指定を受けられるよう準備中だという。そのほか、盛大さが全国的に知られる平塚七夕祭りには、毎年看護士と医師らがブースを構え救護所を設置するなど、地域行事にも積極的に参加し、住民が安心して暮らせるための医療インフラを整えている。

前立腺肥大症の新しい治療法 「ホルミウムレーザー治療」に注目集まる

地域が求める医療を提供する一方、最先端医療を手掛けるフロントランナーを育成していくのも石山院長の方針の一つ。心臓血管外科では年間100例以上の心臓・胸部大血管手術を行ってきた歴史を持ち、外科でも肝臓手術において全国トップクラスの成績を残している。さらに泌尿器科では、前立腺肥大症に対して全国的にも珍しいホルミウムレーザー治療を行うなど、同院では高度医療にも力を入れている。

なかでもホルミウムレーザー治療は、従来の前立腺

肥大症に対して行われる経尿道的前立腺切除術と比較して出血が少なく、入院期間が短くてすむほか、低ナトリウム血症などの合併症が防げる新しい治療法である。しかし、東京や神奈川でも施術できる施設はまだ少なく、「他院からの紹介や、ホームページ上で公開している手術実績を見て遠方から来院される患者さんは少なくありません」と、同治療を手掛ける泌尿器科部長の加藤忍医師は言う。現在、加藤医師の下には他院から多くの医師が、この新しい手技を学ぼうと手術見学に訪れている。「今後は手術手技を広く普及させ、多くの病院で標準治療として行えるようにすることが目標です」(加藤医師)

地方公営企業法の全部適用で さらなる経営改善を目指す

経営的には、2年前に7対1看護を取得できたこともあり、経常収支比率99%以上で、自治体病院の中では順調だという。また、同院ではさらなる経営改善を



4



5



6



7

- ④災害派遣医療チーム(DMAT)。災害医療を中心となって担っていくため、今後はチーム員の養成にも力を注いでいく
- ⑤救急センターの入り口。市民からは救急医療の充実がもっとも期待されていることから、救急診療医の人材確保が当面の課題。将来的にはER機能を持たせたいという
- ⑥同院では2007年から毎年、平塚七夕祭り会場に「モービル救護所」を設置し市民の救護活動にあたっている
- ⑦取材当日、平塚警察署の協力で暴力団対策課の刑事が講師となり「暴力排除研修会」が開催された。悪質な嫌がらせにどう対応すべきか細かい指導がなされ、スタッフは熱心に聞き入っていた

目指し、今年4月から地方公営企業法を全部適用し、経営のトップとして責任や権限を強化した病院事業管理者を新たに置くことが決まっている。「病院が担う使命はこれからも変わりませんが、人事やコスト面について、より効率的な判断が迅速にされるようになり、安定経営につながる」と石山院長は語る。

現在、同院は災害拠点病院として耐震構造を備えるため増改築の基本設計を進めており、それに伴い救急治療室や手術室に最新設備を導入する予定だ。病院機能のリニューアルに乗り出した平塚市民病院が今後どのような発展を遂げていくのか、期待が高まっている。

(砂川朋子)



いしやま なおみ
石山直巳 院長

当院は、「平塚市民病院があるから安心して暮らせる」と思っていただけのように、地域の病院や開業医の先生と連携を取りながら、安全で質の高い医療を提供していくことを目指しています。同時に、それぞれの分野でフロントランナーを養成し、最先端の技術を積極的に取り入れることで医学の発展にも尽くしていきたいと思っています。

DATA

(2010年2月現在)

2006年8月、日本医療機能評価機構の認定取得

診療科：内科、外科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、救急科、歯科、麻酔科

病床数：一般病床410床、感染6床

スタッフ数：530人(医師91人、看護師301人、臨床検査技師23人、薬剤師15人など)

入院基本料：一般病棟7対1

1日平均入院患者数：354.5人(08年度)

1日平均外来患者数：1047.1人(08年度)

平均在院日数：14.3日(08年度)

病床利用率：81.0%

住所：〒254-0065 平塚市南原1丁目19番1号

TEL：0463-32-0015

FAX：0463-31-2847

URL：<http://hiratsuka-city-hospital.jp/index.html>